文久六百歌

秋之部

七月

七月七夕宵宮高砂の宮所の事　蓬萊子

七月七夕に物忌する成制　素心

七月七夕の物忌の義　史清

七月七夕物忌ふる風流　丶

七月七夕庭下結の事　史凡

文月

文月七夕の歌　柏翠

文月七夕の灯のともす八重藤　仙芝

民屋の事　文月の表付の花　春化

[illegible]

立秋

立秋やさもやこのよ哉の物しら　信民

立秋や名ばかりの宿　五湖

秋立

秋立つやあはもさらぬ雲の空　見外

秋立つや[illegible]　歌麻呂

夕影のあるやや秋のうらやまを　信丸

蜩や[illegible]　[illegible]

秋立つやうつくしきまでひくくきし　一吸

七夕の秋

さふくと川もあきの秋　公成

行すゑけるあきの秋　[illegible]

長きひよりよりそひけるの秋　[illegible]郎

行雲はもこそ[illegible]けるの秋　素閑

[illegible]を極よきかの秋蜩　[illegible]

小蟬ふきかいつさくけるの秋　[illegible]

[illegible]人[illegible]の秋　[illegible]

七夕蜩[illegible]や[illegible]の秋　[illegible]

池のうちを[illegible]の秋　[illegible]郎

[illegible]の[illegible]の秋　文種

[illegible]の[illegible]の蜩　[illegible]

[illegible]の[illegible]の秋　[illegible]

[illegible]の[illegible]の蜩　[illegible]

[illegible]の[illegible]の秋　[illegible]

[illegible]の[illegible]の蜩　[illegible]

初秋

一清　五月雨

初秋の五月雨水屋の軒
吸ものよ初秋こそ第一番
初秋やこのもう物を来る雁の風　山岳
初秋の雲やあれよのるいなの日光白し　鄙風
雲秋こもりあり及田の実物のいろ　美子子
初秋や蛙も遠くよりうつくしき　楊下
初秋の第一きやすの宮まつる　佳菩
一本の木よりも秋しるきうれ　陳岳
風よりも秋や夜もやすしまつ　寒光
松をふく風やもつて秋と来る　中巷

二日　岩鳴
波路
京心
水巷
相左
独巷
二大
交尚
田毛
美取
在

二日の月やあつ雲の秋の風
雲の飛ぶやうなる秋の形
秋晴
秋の夜風
人中や秋の夜風ものしづく
巷をうつや秋の夜風神よ入る
秋風
ものこそ秋の夜風
世をうつやゆふべ秋のこの見
篇をうく日の長つくやこの夜風
家をうつ葉のある巷や秋の風
木や巷のあるものの秋の風
秋風や梢をうつる月のいろ

蓮く
め松
毋の女
尾村
士寄
百拙
文誠
歌為
糸宝
此嚢
子乙女

七夕

秋の色の風そ針うつ彩きう丸
行き風ふうの女て年一猿の面
ゆくまく分よ芋や秋の色
物もとそうきよ新て佳し物
七夕や張しいまくの生る満士ら髪
物横や春の四とう居小極のそ
なまもとそと寄を子糸故毛卅
七夕や子弟て穴寄ら行き
七夕や歩行者しき所きつ世
なまもとや三寄まてとく寄ろう
七夕よ世き侍士ら新しの丸

酒蛙
越池
素ら
文蛙
嵐よ
毫将
い
蓮く
く芭
仙蓮
岳山

七夕の宮ものもうでをけ
ばなるべし一八蕎麦の花さかり
物もうでや機織ものもうでも
星七宵 物もうで動く風あり
風新よりたつのうら風あり星合宵
汲出す水の清き星合や言葉きく 物のうら明り
星合 星合や言葉きく 物のうら明り
二ツ星 ひのまくらあり中ゆいつきを二ツ星 古影 出書 土佐 世負 東久 の松 徐蓬 破月
文もあり 明るうて 陸もや二ツ星
星の世 雲うゑ雲ゑ雲ゑ雲ゑ雲の世
星の宮 達ふ世ものもうで星の宮 南天 涼月

星祭 池のある庭ものもうで星まつる星 二瓶 月琴
星の海 照るもの 夜宮を星のもうでる 清月
天の川 世ものの秋ふるうぬ天の川 海水
よきかるよ庭ふ出あるる天北の川 葉文
辻の灯 の宮ものもうでのもうでのまつの川
一世ものもう秋ものもうでもあまの河 六魂
あのものもうでもこやもうで天の川 野閑
見ものもうで宵ふ宮ふ天の川 倦雲
強うあふ世町ものもうで天の川 嵩山
硯 洗 研ぎ硯あるひの宮ものもうで 中像
新ぎ硯 洗ものの先 ものもうで 陳象

[illegible]

貸小神　[illegible]

新東　[illegible]

玄琴　[illegible]

妻　[illegible]

西湖雨　[illegible]

盃の月　[illegible]

人の[illegible]

雪山　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

清兵

[illegible]

[illegible]

生分魂

踊

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

田の苅ん人の横笛を踊のめ　素心
人をうて歩ん歩きをうん　竹囊
孫人の物をしてゐる踊の跡　車屑
うこのうの人の上手のをうれ　平寅
むき竹をこのこのうの竹ある踊　竹中
を竹うまうを鶴のをうを業　竹雪
つて入るんしうもおるをうん　井水
鶴のをる出の踊の形　葉史
あるのうをうを踊をこてをん　紅秋
うをき夜やをうをの一ちき　雪象
をうる写るたうもをきをん　春松

蕗　大

角力

凄ませて雷角を見義を大　仙芝
地をうき雷やを史のをうの　百賀
ををうけうを陽ををん　晃郎
砂をうん新よるを角力和　高岬
空をうをうのうを角力和　テハ　移象
乗入る新を新をう迎を横　春雷
二百十日　隅ををき二百十日の角夜の丸　呂山
種蒔のき二百十日北面の家　史雷
杉をうん寄をう二百十日の形　森山
新をうを一ちの二百十日の丸　佳音

霧

雨を雲のたちあしらひよりきて秋の霧　蓬く
見なしらの霧や霧はたの霧　物山
陸奥はまこと霧も牡鹿や秋の陸奥　鹿秋
江出のふの松はたや霧こもり　第儀子
金鈴ふらして霧を雲の笠とり　生製
花をめる牡の牡のけや霧ゆり　徒苔
牡鹿の霧の高嶺の霧の玉　如白
白霧や山をこそ秋の絵ひしの　雲湖
昨のさめて咲や霧の雲　素松
霧ちるや山をの鹿の月の雲　山古
ちるまをふのきを知るや雲の霧　壹長

旅をまさ鹿の鹿　艸の霧　文種
七艸の霧をめる秋の霧　竹嚢
艸をもしたふ霧の月夜の孔　如繡
白雲の霧をふる霧をふるし　逸閑
夕影や山をの鹿の霧　粒菴
鶴の雲代鹿きるや秋の霧　嘉鶴
雲をこそ八雲をる遠をあ　生製
花雲の霧の秋をふ牡の霧　一字
霧は明け霧はふるや牡の霧　義嘉
雲の霧や霧をのぼるの雲の庭　仁之
霧霧や艸の出て川　手孔　徐蓬

霧

[illegible]　宋鄭
[illegible]　[illegible]月
[illegible]　[illegible]子
[illegible]　自長
[illegible]　猿月
[illegible]　古棠
[illegible]　[illegible]紅
[illegible]　[illegible]山
[illegible]　[illegible]紅
[illegible]　古棠
[illegible]　一得

雁　妻

[illegible]　[illegible]紅
[illegible]　乙丑
[illegible]　古鄭
[illegible]　陵月
[illegible]　乙郎
[illegible]　[illegible]巾
[illegible]　宗[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　菱白

雁

[illegible]

嵐

[illegible]

遅毛ちく[illegible]の雲も紅あらし　梅舟
色つきて未の葉もこそ初嵐　雪野
芋あらて枝先のこすも初あらし　不二丸
立出やむ芋の葉や初のらし　蓬〻
未の字を行ちらしらす嵐　古屋國
色つく末一帆よりくや初あらし　丶
墨扇　夕の雲や扇とまとも叶まつく　この慧
物まの日ちらしる扇の形　色　篠崎
墨洗　おきなく雁ひ女るの物ひるを　一花
酎の別　行ちるもあきの酎の別ちる　不中
身に入　身ちまるる風やるるの陰ふ北　壹雪

新涼　月ちるいふ[illegible]や一芋の丸　嶺風
明きまも言やこの月ちるを新あらし　自長

八月　外の新柳ちるやつく葉月の丸　中青
八朝　八きく中雑度の陰く山の裾　工下　篠山
八朝や月ちるまるしく夜の宮　徐東
八きく中ちるとく屋き町　水壹

二日月　いく手の行る中ちるを二日月　樵城
叶ち寄ちるあるる陰や二日月　卜外

三日月　人をもに屋い物あく三日の月　小藏
三日月ようもちくさ　妙白
三日月の屋もに　蒙塾
ちくうちまの月　外治
三日月もうまいく　歌為
三日月もちを行　秋之
川波のうちく　初月数　蒙雪
又風に出りしまち月数　豊手
初月もに山をもに　入の数　龍將
初月もに　きこのもち屋　双岳
はあもの　さうみ　初月数　生製

初月も新たに　ふもちに　ハ月の雪　玉清
うちくき雪の海　雪も初月数　乎東
刈あちの四よみ　初月数　重為
初月も橋もに　初月数　橋雪
月つ雪もまく　数よ　橋の上　九数
ま雪もまく　灯も入れの　舟　学屋
名月の人を世　ま　ふ　の雪　為氏
名月もまちに　数よ　蜂屋　重凡
名月よ　ちに　入る月　市藤
名月も数　高の　月屋　古棠
名月をよ　の　海雪　乎東

名月

結宵

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今夏の月

[illegible]

[illegible]

月七宵

[illegible]

月見

[illegible]

秋の月

[illegible]

山の秋さよ　秋の月　蕙玉
知足

雲のうへ　山の寒さや　秋の つき　警成

雨の月　清さまさる　雨の月　一章

夢やの　秋くれ　上ぬる　月　葉圃

うへ雲の　うへ　寒　明ぬ　雨の月　也　生國

雲　秋　ぬ　ぬ　ぬ

九郎
仙壹

波田
許十
冥井
忠地
山古
丑後
淡路
若子

此裏

卜外
素心
陸変
一字
知足
之成
歌為
牡為
野足
文種

此裏

雲子

就田姫

峰の二重なる眼の下に就田姫
時を切る、春を忘れぬ

初汐　初汐や星のしづくの風のしら　也柳
神垣はたゝぬ雲なき月の色　青林
磯の火はしらくもうえの秋の汐　梅渓

九月

後の雛　後のある外山しもしら九月哉　好山
雨よ春のおもてをうつ長き九月哉　兎堂
後の月　後の月高き雲なきあるものもあるを後の雛　不二九
はらふきりの秋まゝあしまて十三夜　清民
秋たゝのう雛の二ツ後の月　甘蔗
後の月松風のきゝ消なり刺　巴角

雛をとる世をはきしめる後の月　祇丸
不見ひか九ゝ月　ゝ
雨乾ぬく穴八ぬきのちの月　欽江
山彩のうつる後の月　宋久
軍の衛よりしれや後の月　庭竜
及扱きの糸八ぬくしのちの月　昌竹
家文て書とゝ来や后の月　芭井
踏をの毒使めくし後の一月　一笑
扶ぬ雲ゝ　屋ゝ后の月　青蔵
門の外ゝ糸ぬ雲ゝ後の月　焼月
青雲ゝ毒ゝ后の月　如子

夜長　永き夜のたゝらうつゝや藁の砧　緑市
寝て覚てうつゝをさのみ夜長哉　百枕
暦よりも月のさしいる夜長哉　呂山
霧　霧やふるのきの淋きくらのよるる　文雄
霧時雨　月の降り霧の時雨の板葺の孔　五雨
霧　霧やたゝきの淋きの間を月の間を　春松子
霧やたゝや月も入の霧のいろ　玉清
霧　霧舟や霧の舟ゝ霧ゝ　卜外
霧　神ゝ来一筋根ハ降ゝたゝる霧　月栖
良霧　世霧やまくり筋の山の霧　春南
根霧　霧よつきハちの一夜霧の鐘の声

鐘の音来一ゝ夜霧の鐘ゝ　佳音
人生ゝ霧ゝ来ゝ夜霧ゝ　春氏
鐘　鐘もむやたの山ゝ見暮ふ海霧　春麦
鐘やたゝ寺ゝふゝし庵ゝ　甘藻
鐘やたゝ塔　鐘の鐘ゝ　乙郎
鐘やたゝ鯨　鐘の鐘ゝ　井水
朝霧ゝ　霧舟ゝ来ゝ霧の魚　玉清
鐘やたゝ舟へふけ山もとけ此　松民
鐘霧やたゝ　鐘つゝ　旅ゝ　猿山
ふきゝ霧ゝ　藁の霧ゝ　霧山

秋の雨　あさゆふ雲のたちまちあつまりて秋の雨　春の雨　柳山

春の雲　春の雲たゆたひて秋の雨　柳山

田の畔の道のたくさんにて秋の雨　嘉山

海あまりとなりぬ引きぬいきの雨　南永

陸の海の海の海の海の雨　雪宗

まよひたる秋の雨　雪宗

窓の雨　秋の雨　雪宗

船石の雨　秋の雨　芦陽

秋の雲　春の雲　秋の雲　南平　秋の雲　完伍

川雲の耳　立秋の雲　田九

雲の雲　秋の雲　秋の雲　秋

秋近

行秋

九月尽

秋の雨

秋日和

秋の雲

秋の空

秋日和　法山　文雄
秋晴たる日和の丸　澤岳
出雲の佛ゑる秋日和　霧山
山よりくる人　秋日和　天文京
叶の雲ぬくるる秋日和　双岳
秋の雲　山雲ぬくるる　古逸閣
ぬくと　叶来る　秋の雲　嵐山子
風汐の秋夜　秋の雲　宋子
旅の居心　秋の雲　一雨
地蔵ぬる　秋の雲　常橋
秋の空　夕雲や人の出る　秋の空　中几

秋の夜　蘆間風や何ぞこの夜の秋のいろ　都風
　　樵の葉のうらてきびしや秋の色　常時
秋の山　秋の山見る後生あるよりも雪　雪寅
　　ようひさてをうらんやも秋の山　青莪
　　解るもちとせの行く秋の山　乎東
秋の川　淵ふるの水深の水寒し　秋の川　文屋
　　月ふくる夜ふけの秋川　秋川
秋の雜　夕暮や波のうへよりこゆる秋　居
　　独淋し秋を去る居代　乎東
　　乎上の秋ふる雨のもとの雨　董俊

物語　結庵ふる秋ふる雨ふる山庭この九
山士　雪踏ふるこゆるこゆる雨の秋
俊房　夜を寒ぬ家を稀なる星の秋
俊房　秋の雲人の心ふるる雨
梅遊　ふるや秋ふる雨ふる雨の秋
徐集

一葉　落て人をちらぬ雨ふる雨や相坂の紅葉　長式部
　　ちらちらふる雨ふる尾花一葉　能宣
　　一夜ふる雨つくし庭の相　兵衛

[illegible]人絵よゆきつく一紫の形〳〵　古紫
世のうちよりもうもうと枯の色もくれ　屋
秋らうら寒き秋なきよ一紫ちる　文屋
ゆくもなくて机よ朱うる一葉の色　物淀
相世ゝ葉ふうゝ紫よ来ふりきゝうゝ　つうら
秋ゝ眼の稲うきめやちる柳　牡蠣
紫ちゝ八日秋ゝうゝちる柳の葉　江安
秋野ゝの作ゝまうゝちる乗　岩時
葉の萩ゝ池のゆゝき柳の色　波太
嵐尾叫　嵐尾叫　中四五野ゝうゝ野ゝ　亀の女
嵐尾叫　中桂ゝあるゝ秋ゝ　苔　苔玩

常山花　常山ゝ花ゝ人ゝ常ゝ　常山の色　不二九
末　撫　雨ちゝうゝ咲ゝ朱撫の葉　完伍
ゝうゝ野ゝの朱撫八ゝうゝ門ゝ　爲安
ゝ伸ゝ撫ゝ咲ゝ朱撫　一清
ちゝゝいふ山ゝ咲ゝ朱撫の色　大夢
撫ゝ付野ゝ朱ゝ撫の葉　朱和
野ゝ撫ゝ撫ゝ朱撫の色　乗舟
ゝゝ山ゝ撫ゝ白朱撫　雲樹
訪ふ人ゝ山ゝ撫ゝ朱撫　白几
野ゝ山ゝ人ゝ山ゝ朱撫の色　岳林
黄家の色八山ゝ朱撫ゝ　丸花

艸の花　雨そそのかすくさ　艸の色　古今集

艸もみな人の色染めさせるとて　遍照

紫も山も秋を深くして　艸の色　為山

月の白玉露のよりかけて　藤市

うすもみぢ霧の袖の艸の色　重家

刈萱　結びてくさの花　井鳩

萩の花さくや　貞徳　田

花もみな葉紅葉　秋の色　信一

女郎花　よくこそ咲くの女郎花　出家

咲くや咲くの女郎花　白

井の元よりかくれなく　白風

女郎花　雨のそそくさ咲くや女郎花　水戦

あらくさくこそ咲くれ女郎花　天田

女郎花　咲くや咲くの女郎花　士明

蘭　蘭の花のうくさ　白石

蘭の花咲くや咲くの蘭の花　乗重

蘭の花　蘭の花　松山

花のくさの蘭の花　蘭山

蘭の花　蘭の花　芳艸

蘭の花　蘭の花　芳艸

蘭の花　蘭の花　侯海

[illegible]

[illegible]

[illegible]

葉

葉の出る時のうつり行を見るに一信
色数を尽しまつ緑の葉　北意

葛袴　まさしくあきものけしき也　袴　北嚢

刈萱　刈萱の風もちのうを入れたる　粤堂

のうるかやの日信よりぬきの位　呂山

桔梗　雲形をとりきるの桔梗の丸　北嚢

雪ぬきよりぬけ物不せ　桔梗　徐来

芭蕉　籠ものの日宿よりもの芭蕉の丸　為山

始てのよさるを世界のうらし　千表山

降雨を備へたるもちくもちをうる　北友

雲へ入る風をやまをうたてのもち　北嚢

萩

竹蟬よりまつ風もうる萩の考　信民

もつ萩をもまつもをもの萩の考　桂堂

雷のうもの風をゆうしよ萩の考　懐変

蜻蛉しを出る月あり萩の考　素丸

まつうるの初きを萩北外　生翼

何つ嫁を月よりあの生く萩の考　其東

竹屋のうを萩をくしや萩北考　義山

引汐よまつうもまつうよ萩の考　伝雪

海をもまつのしいをを萩の考

蕎麦

漆をを牧葉をまを一屋の[illegible]　芹舎

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人[illegible]

[illegible]

稗の花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一ツ家の庭のつきくさ紅葉して　芋阿
紫雲英ちらし赤き花の孔　京園
芋畑の白きかしらの花咲て　文雄

廿巳

雲霧にくもる日の暮るまぎれ　古西馬
時雨さそふ山もよ嵐ふる滝　蓼仙
雁ちる家のとぼそ芒ゆれ　素雄
日の入はけつ鄙ちまきの原
暮る日も雁ちるうの花芒ゆれ　加穀
遠里の灯ちらるうの芒ふく　蓼松
三日月を出るとちかく芒の形　花蓑

雲霧の上ちる雁芒の孔　獨下
雁の声ちるうの花芒ゆれ　住芦
秋ちるる鄙ちまきの原　雪舟
人住ぬあるうの花ふきの孔　牛嶋
時雨ちる日の夕新芒の形　文里
芒ちる雁おちるうの孔　古影
義の上ちるや雁芒ちる　不丘
雲ちるの鄙ちまくまぬまきの孔　文雄
雁ちる田畑ちるけて雲ちる孔　陵水
小船ちる家ハ根ちるの花蓑　素書
鳥の孔のうちくの芒ちる　屋

[illegible]

萩芒

[illegible]

紫苑

秋出業

[illegible]

葛の花

[illegible]

鳳仙花

[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

出羽ノ国ニ入ル所ノ名ニ稗ノ秋 信一
志ノ国ノ名ニ風ノ吹フル稗種ト 豊ノ
国ノ名ニ雲ノ出ル稗種ト九 文志
芝松ノ枝ハ赤キ穂ノ稗 波 素原
行ノ国ノ名ニ吹キ穂ノ稗 中信
月ノ出ル方ヘ向ヒテ稗ノ穂 丶
五穀ノ主ニ神種ト神ノ社 梅宿
五穀ノ中ニ稗ノ穂ヲ出ス 欣嚢
ウ第稗ノ穂ノ長キ出来 粤雪
第ノ稗不二ノ雪ニ成リ 見外
中ニ稗ノ穂ノ多キ物 寄名世

稗ノ穂ノ長キ雪ニ押ル 七 祖紹
ヲ下ニ受ケテ見ル稗ノ出来 雪山
長シテ赤キ穂ノ稗ノ中 貞忠
塚ノ中ノ穂ノ多キ稗モ 一得

蕎麦種 旅人ノ多ク通ル蕎麦種ト九 晴河
芋部ト見ヨ多キ地ノ蕎麦 貞忠
八束種 七稗ノ八束種稗一人ノ物 双岳

菊 菊ノ花ノ中ニ多キ物ノ菊ノ葉 定望
傳ラ〻ル菊ノ葉ノ長キ 路山

重陽
岩城
戦山
毒蓋
俄出
水壺
山吉
波用
口外
星岬
為時

庭の菊のそのうめ出よりの白ひの九
菊より寄けるかりそめのうの庵
菊ふ菊日ものてこ寄のそけ
そのおちつ世るものをのそてく菊作り
菊の花れもよりき底の伝ある
菊うえ世る結りも植るの仲雪
世よりち行し菊は苦句のうち武
某る岩名大方俳そ菊より月
系より自ふ菊の日和ふ俳ふきき
玉園一池より咲ふ和世菊の九

長代め
生菊
二中
俳友
車屋
奈里
仙芝
め編
玉英
樹宮

和葉　[illegible]

[illegible]

一株の和葉　[illegible]

[illegible]

[illegible]

焦葉　[illegible]

萩和葉　[illegible]

[illegible]

[illegible]

柿和葉　[illegible]

[illegible]

[illegible]

朱の實　竹志めたる者の陣や篠と朱の實
鶯にの笑て出る朱の實うれ
雪ちらふ庭の小菊なまめかしき朱のこ紫
鳴虫なる木も実を彩る榎の実
仏手柑や薬山田てらしを
球栗や虫くらのうへの二四二
蔦くらや空きさきふ山の雨
茶栗や行く栗きふ山ち茂
老栗や柿の日ら恋雨ふ
寄らめも幾日の雨や庭の柿
行くよりも墓ハさくよりも熟柿ハ

文屋
蜜僧
陸奥
粤堂
森峨
多乙女
宝宗
陸奥
芹舎
葉蓼
風月

仏手柑
栗
柿

密柑　密柑の実の数のふくる密柑うれ
笑ふ又ふくるやのうきくきまるのん
雲の鶯一出ぬ鶯ハ笑ふ雨この鶯
朱柑　うら柑や笑ふ雨ふる鶯ハ陸奥
芋の葉　芋あけるやうくふ芋の葉
芋の葉小雪の芋ふ芋の葉
秋篠　秋篠や志ふ芋ふ芋の葉
豆引　豆殿や月の出ふ秋篠ハ
朱の子　陸山ふくまるの子ハ
笑ふ小雪ふくまるの子ハ
蘭うれ

素心
水壺
露光
陸奥
芋陸
素山
陸月
陸奥
山雪
梅太

[illegible]　梅通
[illegible]　造酒之
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

多種めいて旅人寒さう虫の声　陵角
蟋蟀一虫の哀を索る西を淋きうち　紅鶴
沈黙芳草の根のの接ひ虫の声　春山
神修のはるの用枕や虫の声　素屋
虫ふく〳〵や寒のふるのまよひ　陽子
むしの面よ視るつきうう蚓の虫　陵谷
ちぢくるる淡よこのそるや虫の老　角南
虫籠やしらく〳〵夜るのこの事変　晴河
くゃもく〳〵や月のうしろよ虫の声　橋雪
むし〳〵ちく〳〵や夜の籠のうしろ　宗春
寝財ふよ高生ふい言し〳〵虫の声　文宗

虫ちく〳〵や神ちく〳〵ふし〳〵ぬ蚓の虫　峰風
ちぢ山ちよふし〳〵ちく〳〵ぬ蚓の虫　苑外
ぬき足よのちく〳〵海芋や虫の声　竹嬰
ちくこうふんの生ちく虫の声　古棠
虫や〳〵豊ふ月ふきくんのちく虫　中仏
むし〳〵ゆ〳〵や神ちくちくちく庭ふ　陵子
虫の声よ面て竹〳〵ちく小庭ふ孔　宗賀
家竹〳〵ちく竹〳〵笑〳〵虫の声　春紅
虫の声ちく竹ふちくちくる家家の孔　梅水
海虫秋の秋よ虫ちく虫の声　苑月
遠ちく月ふ虫ちく〳〵ちく〳〵や新の虫　学梅

[illegible]

篠立虫　何時とも人をよく寝て篠立虫　[illegible]子

[illegible]の[illegible]又拍子　[illegible]て虫　[illegible]

[illegible]笑き[illegible]あり篠立虫　[illegible]

[illegible]風しつよくて篠立虫　一字

[illegible]て[illegible]篠立虫　[illegible]

松虫　松虫やこゝろふく月の影へさま　小松

まつ虫や[illegible]たるものゆく　[illegible]山

鈴虫　すゝ虫の[illegible]や表[illegible]　[illegible]子

鈴虫の[illegible]や板[illegible]の[illegible]

鈴虫の[illegible]や鈴[illegible]る　[illegible]

すゝ[illegible]の鈴[illegible]の井　[illegible]

蟲　虫　[illegible]鈴[illegible]　[illegible]山

蟲　[illegible]の[illegible]　我走

何時とも[illegible]の[illegible]　[illegible]

料理[illegible]のと[illegible]　芦川

つ[illegible]の[illegible]　[illegible]

人の[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]　[illegible]

蛇　馬　板[illegible]の[illegible]　北松

板[illegible]　文[illegible]

燒きたる　あまたの人　帰りいくこの九
月　せきもあへず　舟　出　いくこの里
時　雨　出　月　和　きまつ　きの里
雨の　夜　雲　集　つ　出　一　京
さく　織の　あく　や　終日　ひ　あく　此　裏
猶　出　や　年　度　毎　舟　い　出　南　丞
出　ひ　ひ　こ　ひ　き　ひ　ひ　ひ　地
長　つ　出　ひ　ひ　く　出　裏　う　ひ　裏
節　よ　ひ　ひ　く　き　る　い　あ　の　九
風　き　く　き　つ　や　裏　の　ひ　うつ
年　ひ　の　く　き　こ　う　舟　い　き　ば
繁　盛　此　裏　此　裏　此　裏　此　裏　此　裏
此　山　此　裏　一　京　此　裏　南　丞　此　地
此　裏　此　裏　此　裏　此　裏　此　裏　此　裏

埼

つ　出　出
侵　織
裏

埼　此

埼　此　是　ふ　う　子　の　角　に　ち　て　陸　此　つ　出　不　此
陸　此　や　初　き　た　ち　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　此　裏
陸　此　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

埼　埼　埼　埼　埼　埼　埼　埼　埼　埼　埼　埼　埼　埼　埼　埼　埼
埼　埼　や　き　き　や　や　や　や　や　や　や　や　や　や　や　や
い　い　き　や　や　や　や　や　や　や　や　や　や　や　や　や　や
埼　埼　や　や　や　や　や　や　や　や　や　や　や　や　や　や　や
い　い　き　や　や　や　や　や　や　や　や　や　や　や　や　や　や

秋の埼

是　是　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
埼　埼　や　や　や　や　や　や　や　や　や　や　や　や　や　や　や
埼　埼　や　や　や　や　や　や　や　や　や　や　や　や　や　や　や

埼　埼　埼　埼　埼　埼　埼　埼　埼　埼　埼　埼　埼　埼　埼　埼　埼
埼　埼　埼　埼　埼　埼　埼　埼　埼　埼　埼　埼　埼　埼　埼　埼　埼

明の春は春ながら秋の悲
しさ
秋の雲　秋雲のうち光りかがやきかくれ
あるよ入日なる　秋はあくまでうつり
暮雲　雲のもやひくく月夜なる
うつり雲は春もむかしの春の名残
蛇切時　うつり雲や蛇切　蛇切　蛇は春
雲のうつりてあるよりうつる蛇切
秋の雲　秋の雲ゆるくうつる雲
秋の雲　秋の雲は春の雲

霧　霧は春の霞なり秋の霧
霧の時　霧ふきの雲を待ひたるうつる
四季の霧　人よ春秋くらく
星へ出る　星のきえ出る時うつら
月のうつる　月は霧の中
月入月　入月霧は霧の中
陰陽の霧　陰陽出日霧の形
うつらきの　うつらきの人は日和
雨の時　雨は春くく一相霧は
霧は春の霞なり秋の霧
霧の時
霧
霧

土堤下や賜の下あるの
賜傳や狩迄ハくくより月の賜
賜ちやや人　新も出きも出ちく
賜ちとハ行事の日暮も同一事
二月ゆ二月ゆ　暮の賜
暮る四の表行ゆく賜の暮
月の賜あ出ちく気ハ出きも月蓮八
傳一出くも　狩やいも日の入月
新風をしつく　狩の暮
ちちゆつく空の　ちやや狩の暮
特ちもち夕空空　狩の出

歌玉　彼月　家暮　孫末　桃山　川迄　氷壺　彼月　竹囊　陳岳　署徒

沙魚
小鰐
雇

蛍ゆ服をやくきもちゆ狩の暮
月蛍せぬ一出を狩の月の
狩ちくやり月ちの月の暮る山
百舌ちや傳や雪の新引浦の松
行ちのあゆくくくくきを狩の暮
鰐出暮る沙魚や海の向ひに
沙魚狩ゆ月ちの笠ちきちる夕日八
鳥人ゆ入せちちやいちく　海
くちゆ出ちき出ちく狩へ行や鰐出ちく
雇ちゆ庶ゆ数のゆちるや鰐出ちく
鰐出一ちく出ちく数ちせ鰐出ちく

庄雪　井鳴　陽竹　竹笠　氷壺　彼月　竹囊　干蒜山　一芳　夕迄　一字

下り簗　竹をあみ[illegible]この[illegible]うり[illegible]簗　遊廓

簗山子　斉伸もるさまやこのしの夕日影　九枕

山ろや簗山ろの外よ人も見き　旧山

ゑと村雨ふらせてゆくこのしし　魯雪

立あおき月数よさゑるこゝろ　此嚢

新町を家々の田をもる簗山ろ　角丸

傳子　庭よりふ物ゆしらゆる傳子ゑれ　蓬く

一曲よ夢の立ちうあるゑ　龍角

引板　雪舟よ方角学やゑの板　業山

活　丸家のうち名の活丸の類の形　一茂

焼鳥　焼鳥や学ゑ[illegible]以て校定[illegible]　笙洲

焼鳥や山ちかく[illegible]ゑ面　卜外

焼鳥や[illegible]ゑ[illegible]ゑ　芦中

乙鳥帰　乙鳥学ゑ[illegible]ゑ書一家の名　文里

[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑる藝ゑ　此嚢

[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ　梅迷

[illegible]の実ゑ[illegible]ゑ　梅好

[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ梅　梅通

[illegible]ゑ中[illegible]ゑ[illegible]ゑ　出阜

[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ　この涼

[illegible]の灯ゑ[illegible]ゑ　土波

雨降りしきぬれば草葉の露
初尾花うち出でしまの
下もみぢ日ぬるまに
雨の日ごとのつゆ
望月の
うつき枝の
尾花
一朝に
下もみぢ
紫の
雲間の
月の
秋の
月の
秋の
月の
秋

高山の日和佐宮より
郡より出る日のあるや海辺
竹帯木のひとえなるや海辺
何者か出るとて出るの
一本ずつ立ちのり海辺
只あの出るとて出るよきと宮をとうとう
吹くや初風吹くとうとうと童
まつ毎のつくぬ屋を寄せる
山出る薩埵峠
いろの宮所日の出は一あらし
高砂や吹くの宮のうかるまつの宮

経好
樹石
井手
吉春
庸永
田保
堅永
灌河
修風

啄木
啄木や木陰に休ふ旅人
啄木や夜花茶屋の
啄木や藪夫一云く
啄木や出る
啄木や
啄木や
啄木の
啄木や
啄木や日
啄木や藪の
啄木や入る
鶯
鶯や
鶯や
鶯や日

物枕
宋子
田儿
宇乙女
一雨
居
竹囊
素松
之成
梅窠

四十雀　朱と紫とを交ぜて四十雀　一法
四十雀なくや雑色の日和の色　峰風
椋　支子とこのくハとをしぼりの薬　文望
山雀　山雀や朱を使ひて雲る雪　物菓
鶸　絵の筆や図の鶸の手を使ひ　峰風
頬赤　黄と紅とを使ひて赤の黄よき
沼鮒　鮒とは朱を多くして赤を鮒宮る　風交
赤鮒　赤鮒とは朱を多くして鮒宮る日や　鶸水
鮒　鮒とは朱を多くして鮒宮る日や　鮒水
山鶯　山鶯と雨の緑とを重ねる　双岳
蓑鮒　蓑鮒や名を多くして蛾る川　峰嚢
一時　一時

川蓑　川蓑とは蓑の多き蓑の多き蓑の多き川蓑　峰嚢
蓑　蓑
一夜　一夜の蓑の蓑　拡之
二の蓑　二の蓑の蓑ふうちや風の蓑　出徐
蓑　蓑とは蓑の蓑　徐蓬
蓑屋　蓑屋の蓑屋の蓑屋の蓑　峰風
蓑城　蓑城の蓑城の蓑城の蓑城　料天
蓑　蓑の蓑の蓑の蓑の蓑　松民
風　風の蓑の蓑の蓑の蓑の蓑　峰嚢
蓑笛　蓑笛や蓑の蓑笛や蓑の蓑　延閑
日傘　日傘の蓑の蓑の蓑の蓑の蓑　徐蓬
鮭　鮭の蓑　徐蓬

鰤

[illegible]

[illegible]

[illegible]

男子は美しき九日の神の御

蓮の飯 葉にて蓮の飯をいときたう 呂心

蜜 蜜 蜜蜜十把ばかり門田の蜜 素性

蜜蜜や味のよろしき蜜なる 赤月

粥 海月を引きたるやうの心地する 糸竹

海山の仏 海山の仏にまうでて粥を食 宗

新菰 菰を薄にして新菰 紫里

宮殿 宮殿にまうでたる 身宝

物使 物使にまうでて物使 中几

鍾馗鬼 鍾馗は鬼を切りたる刀 車屋

粽 粽を粽にまいて 竹囊

門菖蒲 菖蒲を門に菖蒲 号板

五葉盆 五葉盆にまうでて五葉盆 泉屋

新菖蒲 新菖蒲を切りて菖蒲 甫永

菖の灯 菖の灯をともしたる 宗雪

竹市 竹市にまうでて竹市 甫永

竹市や新の竹市や竹迎の家 車屋

竹市や竹を竹へて竹 永蔵

迎火 迎火をたきたる 養蓮子

[illegible]

一字

[illegible]

[illegible]

[illegible]

燈籠　燈籠や百うゝまる思ひのく
ゆきゝ　ゆきゝ　極めてうき燈籠哉
男やらしくつゝまる門うる灯籠うれ
家ちらるゝ　行きゝ　きゝ　ちゝ哉
行ちらうちもゝ風ふゝ　ちゝ哉
燈籠のきゝ　うゝ　ゝ　ゝ　ゝ哉
あれのゝ　心のうゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
燈籠のゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
灯籠や　きゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

文種　玉清　中几　素成　松夢　此囊　住苔　野雄　峰風　文龍　松夢

切　籠　流ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　

[illegible]屋作　[illegible]
放生会　[illegible]
[illegible]
[illegible]

文久六百題

冬之部

十月

十月七夜　月前紅葉　九紀

十月七夜　新蕎麦　秋之

十月七夜　雲の峯　秋峰　霧村

十月七夜　初雪　つゝの庭掃除　雪山

十月七夜　月に雁　雁の鳴　虫書

十月七夜　新月　第四の月　庭茶

十月七夜　冬の月　悔和竹　家義

十月七夜　暮ちかく　新茶　仙芝

十月もすゑになりぬれば日の暮るる
神無月　山もまさに時雨もすぎ神無月
もの山へあつまるこゑ神無月
磯山の嵐はげしき一のもみぢ
冬　冬
初冬　田中なる稲刈り
初冬　何の鶴も鳴くなる
初冬　足ゑ
初冬　浦きぬ
初冬　月
初冬　松の風
星鹿　山吉　篠薄　小春　小春　連理　楽物　外文

小六月　海辺の塩竈の煙
深田なる小六月
松葉のくれ
小春　一月の小春
日のくれ山
引残る
世つぎ
小春日
海辺
初冬　東遊　保食　伊蘇　一月　玉　仙芝　古逸　関　食　伊蘇

小夏日や　芭蕉さかるる木の蔭
世を旅の神ぞ　あきの小夏の雲
惜しむ
笠なる　菓子のふるさとの
さくらぬ　二日はつかの日の小夏
梅さく
菜畑
黄ばむ　藪よりあるる山の夏代
茶風
世の小夏　山のふもとの雲
鶯
なつ川の　雪解きの水の小夏
池鶴
江のうへや　小夏の風を潮さす
玉清
砂川の清く　あるる小夏の
宗不
小夏日や　長崎なる　陸奥
水雲

夏の子　世よりあるる　夏の子代
雲を　逃ふ風のさけきいの子代
夏の日　夏の日長　雲ふる　西野
夏の夜　夏の夜や　いく　夏代をこのくる
夏さる　夏さる　世をあるる　変るなら
夏牡　夏牡よ　夏ある　夏牡丹
夏こ　夏こや　夏ある　夏の雲
夏の　夏の　夏の　山の尾
夏蝶　夏蝶　夏蝶　夏蝶　夏蝶
人の　人の　人の　人の　人の

呂山
双岳
玉清
蘭雄
雪山
ゆ雲
越山
雲象
書癖
葉形
修風

地焼きよる家を拵へこの手へ
炉開　焼初きや野よりこの陸手め
炉びきや蒙い合せのあるを酒
巨燒　寄ると歩ると巨燒うち
入れもるを家伝よ初くもるを
問うはる四方の手寄和墨巨燒
ゑもかく蔵ようはるもつこの孔
燒ゑ物ゑ世ゑまさるぬ墨巨燒
ゑもゑもの拵めしゆるもつうち
うしろこの〜寄ゑ巨燒代
四ゑもゑもゑ寄ゑ家の孔

家寄
新孔
墨唐
黄孔
家戦寄
花咲子
炭嚢
水壺
文墨
新孔
碧天

火桶　乗くよ周孔の使ゑ燒ゑ桶
ゑ初きゑ雨寄ゑの相ゑ桶
人のくを寄ゑゑ桶の寄ゑ
手燒　手燒ゑ根何の寄孔ゑ先
火鉢　寄寄ゑ手の敷のゑゑ火鉢代
光の寄ゑ火寄ゑ燒ゑ
燒きこ寄ゑ寄ゑゑ鉢代
埋火　燒ゑゑの寄ゑ鉢
燒ゑゑ寄ゑ寄ゑ一時
囲炉裏　乗寄ゑ寄ゑゑ裏
温石　温石ゑ寄ゑ燒ゑ

為山
公成
徐蓮
文志
仲堪
赤保
仙芝
乗東
司馬
野燒
文成

湯豆腐　霜月ごろ海豆腐を買ふ食ふ小
初時雨　昨の夕ごろ降るあとより初しく冬
きぬぎぬ　冬月の末の方の初時雨
物がたり　夜ごろ物がたり初しく冬
泊まり　泊まりつとやまつ冬く行
寒く寒つ　寒やまつしく冬
ちちはる　ちはるくまで初しく冬
掃き　掃きの冬掃き初時雨
ちりぬ　ちりぬるまで初時雨
朝ごろ　朝ごろふ冬ごろ時雨
冬籠り　冬籠りの大根の味や初しく冬
冬食　冬食の冬

初雪　初雪の時ごろ時雨小
大雪　大雪の時ごろ手紙書く冬
降ごろ　降ごろ冬ごろふ時雨小
雪ごろ　雪ごろの竹や時雨の降ごろ
雪籠　雪籠の冬つ掃つく冬ごろ
雪ごろ　雪ごろ冬ごろ味噌の冬ごろ小
雪ごろ　雪ごろ冬ごろ冬ごろ小
雪つもり　雪つもりの冬ごろ冬ごろ
雪ごろ　雪ごろ冬ごろ冬ごろ
雪食　雪食の冬ごろ冬ごろ冬ごろ
一一　一一冬ごろ味噌の冬ごろ

[illegible]　松のしたくさの花　菊曉
[illegible]　清きしくさ　水白
[illegible]　時雨のさくら　山家　龍將
戰くまるさくさ　海棠の花　蘆糸
月の後まの時雨あり　紅葉　黃乎
引樽　山や世中のタ　さくさ　宴
さくさや　緑ちき　星れさ　沈　蓼
又さくさの　まくさ　まくさ　蛙の時雨　蓼
時雨まつ　ちちの　傳ひ　花よけ　文種
さくさや　ものこゑ　月の山　仰風
世とまるあ　さくさ　さくさ　鄭風
徐蓬

[illegible]　蛙風　嵯峨
さくさ　さくさ　宮き　稽よ　蓼の　蓼山子
演伝　きいさ　さくさ　ちち来　時雨　龍將
世ち　この　さくさ　人よ　ふる　松の時雨　佳音
風さ　ふさ　この　さくさ　あ　きし　さ　世　蓼
[illegible]　さくさ　さくさ　蓼る　外山　花　永巷
清さ　海　酒　さ　さ　さ　蓼　柏葉
時雨　月　あ　さ　さ　月　あ　の　風交
ちの　清　さ　さ　さ　時雨の　気　仙
掃　よ　の　蓼　姿　付　さ　さ　東廊
ちの　鼻　押　出　さ　さ　さ　時雨　山　由儿

春雨の時分に成て柳の芽
日毎に延て行く中の長く成
行きと共の長く成る時分に花
長く成て行くこの葉の芽出
出て長く成て行く成る
一つ〻の時分に一段柳の芽
日の内に成て行くと云こと
時分に成て行く山日和
いと〻の〻く世の中に成る時分に
行て一段時分に成る蟬山の集
葉の濃く成て一本の時分に
文志

雪柳 雪山 雪女
月隠れて行く雪の中に成る人
時分に成て日の出を待て
行く中に四月巻中に成て行く
雪に成て行く時分に
人の芽に蓑に成る蓑
御所に居る人に一霜に成て行く
萩の葉に成て行く
只居て出る人に
あ出て物に出て行く
霜折〻に藤に成る
雪に成て初て霜一つ〻に
雪山 雪女 岸一 水壺 住吉 古里 紫 萩 霜 白馬 落山 葉松子 花蓮子 蟬壺 蟬

[illegible]

自長
義雲
茅山
雲雀
玉藻
紫蘇
玉簾
水蓼
楽弓

[illegible]

雲月
壬敬
料理
山吉
雲南
常陸
玉雪
芋阿
水壺

木枯野よりかへりて　三笠山

木がらしや目も当られぬ大根畑　芭蕉翁

ちるもみぢ　散るつゝ散るつゝ　木枯の　風の力にこたへかねて　樹石

木枯のたえ間　青鷺の　脚寒し　秋之

木がらしの　淋しさ　海の　おもてかな　雲雀

たのもしさ　風に　鳴き　通りけり　月桂

木枯や　鎌倉　山の　雲　雪

雪ふるも　木枯の　川　ふる　松　野好

木枯よ　ふり　むく　枝の　こゑ　不二丸

木枯の　あと　ゝ　枝の　ゝ　ゝ　叩　叢

風や　うゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　玉

木がらしや　月　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　百里

ちるもみぢ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　常時

木がらしや　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　竹文

木枯の　あと　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　孫蓮

木がらしや　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　田九

ちるもみぢ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　利治

初雪

初雪や　人さゝの　世よ　名のり　傳　祐之

ちらつく　雪や　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　仙月

[illegible]

初雪や六部ふたり一ふり　文種

初雪や[illegible]　東屋

初雪やいふてもとれば[illegible]　化嚢

[illegible]

初雪や[illegible]　如繡

[illegible]　一亭

初雪やふるまひうまかりる　仲文

初雪や月を[illegible]　田素

[illegible]　[illegible]

初雪やいろもつせ一紫のうへ　[illegible]

初氷　[illegible]

[illegible]　氷　一亭

[illegible]　文里

[illegible]　田仁

[illegible]　種好

[illegible]　物芝

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]を[illegible]しい[illegible]の月　[illegible]岩
[illegible]月　[illegible]の[illegible]月　[illegible]鳴
寒さ　[illegible]を[illegible]の[illegible]を[illegible]　[illegible]雪
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文種

静風
庵懐
常住
新夢
一法
智曲
世負
末悔
梅新

彫見世
袴美

入
宝

龍將
文種
口外
他鳳
等嶽
世負
新
樹石
氏戒
庵の
文星

雪

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

陳食
雲
一川
桃版
粤雲
波国
之菓
子人
種好
東国
鶴岡

雲
雲
雲

氷

雪の雨　氷柱　垂氷　凍川

文里

波月　波翠　仙芝　我山　弓汲　之成　義書　静風

雪踏　雪踏のもくてんてあるを毎のうち
雪車　雪車ゆきぐるまゆきのうへをすべるもの　為后
いのちんてゝ雪車をこしらへて人の出る小　雪山
雪車こしらへてゝ雪をもつて坂　波間
雪踏出て雪をまきあるき練小　虫係
橇や見よ来一番めの履ものを　雑好
橇のあしゝ橇をこしらへ雪　之猿

師走　市町やよろの御走をまつ郷　菓欲
雪月　雪月花ゆきてゝ組屋敷　由几
寒梅　雪梅やゆきの月を向て立　俊風

雪中　雪中のあるいてゝ山の出るを　東里
雪中　雪中のあるいてゝ山の出るを　百賀
雪中　雪中の新のあるきあるを墨の　朱保
雪中　雪中のあるきあるを仕ふるを富刻　春雨
雪中　雪中のあるきあるを日数　杉好
寒梅　やまもとのうらきを宵のうち　松民
雪中　雪中やゆきもをいつも橋を好　一家
雪日和　雪ゆきのあるきあるを雪　雪日和　宋子

歳暮　歳暮出ゆきもちをもつて鴨歳紫　屋村
歳暮　歳暮出ゆきもちをもつて歳　歳山

[illegible]　柴垣
[illegible]　北松
[illegible]　龍膽
[illegible]　白
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

[illegible]

紅葉賀

[illegible]

[illegible]

[illegible]

芋の葉にて日中を覆きたるもの
枯芋の葉やぬくゝ雪四五日
重せる藷の芋やこの葉を
うゑたるの名又風情あり枯の芋
いつせのうゑ葉を失ひて枯たる
枯くゝ丈高き芋きてこの葉
根のあゆめる風のつゆ一枯たる
枯山や雨よりこの葉すくきき
雪一日の俳句をこゝすくき
葉をよしい十寸雖ゝも枯芋
うゑたるもくへつゝみつゝ芋茎

後洞
丸巻
長軟子
芋蔓子
寒二
雨丈
発芽
世負
笠山
仲出
物遊

枯芒

枯芒に雑るもの
月よりこの尾花
枯くゝ枯ゝ
月にうゝ芒
川の芒尾花
陸奥に陸奥
うゝ芒
枝よ入芒
芒尾風
枯芒風の
雙ゝ

紫閑
山古
陸奥
情愛
雪萩
田凡
一筆
生長
古墨
俳風
雪来

枯蕨

枯蕨の風のうゝ
蕨ゝ枯ゝ

蓬 牡丹 牡蓬や強くぬ傳ふ生なれ一茶　芳蓬
この蓬やちゐ居のいとまさ池のきハ　仙蓬
牡蔓　牡くまを所漁を求る風のふきよる　不二先
牡蔓　雨水を淺き物せてこの生る蔓　文里
牡李　この世外やこれのつの物よ古井筒　永山
手傳やこの生てこ毒き外の蔓　雪
蔓牡丹や蔓きハ葉畑大根さく　搖下
牡葉　さくさくふ物ものこの生ぬ尾の葉　白
牡柏　蔓ぬ葉く生てくやこの生物　丶
牡杞の花　さこ一さふ生くぬるやの牡杞のさ　永江
葉の花　葉のもの牡丹ぬ出る白ひこれ　此裏

▲冬部一

花蔓ぬ出くくくく吋ぬく葉山こうれ　陸雲
葉のもや雲のくもるの住居ふう　丶
葉の花や畑くもつのぬ物の内　百賀
葉のもや影の蔓もくく里　文志
葉の花や葉雲くぬよ竹ぬ里　永壹
山葉花　山葉もや風ものぬ種くもく　葉号
さくんもや蔓の蔓のくう　春山
山葉もやいぬ蔓よ生毛蔓尾　テハ文宮
山葉もやもや生ハ文さくものある　逸世
帰花　永陽る　鶴の葉一のくう　樹石
蔓くよう咲る日のあくく陽毛　碧水

夕日さす梅よりつゝうの花
はるかなるをやうより帰る
日の入る日の白ひあるつゝうの花
咲きまさりて立ちまさり
降り出でゝ
葉の根よりの末
見る気もあきんなる花
葉もて知るのみもつゝうの花
見る時ゝ咲きまさりて
山岸の来ちかきを
黄色なる山中のつゝうの花

水風
山吉
家里
与変
松雪
陸月
鏡月
市笠
竹叢
歌象

牡丹

咲気力なきもの
多くは堂のまうけもなくて
一輪の日きはめて
風もなく雨もなくて牡丹
なりたる
葉も枝のまさりたる

八重の花
葉よりあるは未だ
家の物
咲ぬうちは
未だ家人のうち
家賃の物
偽る人のうち

牡丹
長雪
吉影
星乙
雪鏡
永壹
庭花
煙月
雪山
壹雪
雪水

石蕗の花　世まれ世に生ひ立ちて石蕗の花　易長

紅くも葉のくれなゐ八重一つ咲の色　寿山

梅の花　葉くもりの色よ世に梅うれ　巣源

ちつとりとさよ葉に梅うれ　清河

水仙　水仙や日ひかりうつて咲くもの　為山

水仙の葉もこのうちやまぶき　乙也

水仙や白く白く木蔭も清ら出　仙月

水仙や白き八重の咲よ宝き　如月

水仙の白ふや白くうつり机先　波洞

水仙の色見て白く鳥うつ葉代　千実

水仙や陰ふまを白めぬくく　文雄

水仙の陰ふまを白めぬくく　蕾樽

水仙や葉の葉ふ白ふ白ふ　花紅

宝　蕪　ふ蕪の根の白く白く白く　乙立

宝き蕪の咲きうつ白き蕪　撥雪

宝蕪や咲のうつ白く白く　赤山子

宝き蕪や白く白く白く白く　心

大根引　陣ふ大根ふ白く白く白く　九郎

門畑や月夜白く白く大根引　六撥

提灯て毎のつ白く大根引　越山

寺ふの葉つ白く白く白く大根ふ　牧山

陣ふ白く白く白く大根ふ　文雄

千大根　板の月に墨さまれる大根の丸　苔筑
切干やくさ〻日のさし縁めらん　雪山
切干や結縁未日の縁よりさて　文里
萱　蕓　ちるしらゆめさせそう萱の磨　不生
海　漬　海漬の味和泉つゝ名物ゝこゝろん　こゝろ
干　菜　こゝろ〻ちさまこゝのさめ紙二一菜　表季
石はこの〻紙云ゝ磨ゝる物ふれ　物渓
横のゝ雨の結ちる千菜この葉　孤峰
ちさこのゝ夷の風の物東代　安月
蛭生姜　蛭のゝゝし物めの何ゝく蛭生姜　清水
麦　蔚　ゝよ張ゝゝや麦まく物の麦ゝ　雨文

板ちゝや麦まく畑ちこのゝ　芭蕉
雨雲の出ゝ麦蔚のいさきゝ　春彩子
新会ゝのく麦蔚ちさゝぬ雨の出　雪魚
傳家の月和ゝや麦の中の出ゝ　俊隆
鈴のゝ出ゝ千出日雨ゝ雨ゝつ出　出傳
出風ゝ雨咲雨ゝ通出清ゝ出ゝれ　柏葉
著ゝゝ咲ゝ咲ゝ雪の何ゝ　雨　扶　鬼月
雪の物　月ゝ月ゝる出ゝ月ゝ八ゝの出ゝ雪の物　素子子
咲ゝ雪ゝ新雪ゝ清ゝ雪ゝ山ゝ物　葉二
ゆゝ新ゝのゝゝ雪ゝ山新ゝ雪の物　雨柏
咲ゝ雪ゝ雪の出ゝ咲ゝ雪の物　玉清

[illegible]　風交
寒梅　[illegible]　梅花
[illegible]　奏玉
[illegible]　百賀
宝樹　[illegible]　梅恍

[illegible]　綱代
[illegible]　[illegible]　綱代
[illegible]　種海
[illegible]　新商

[illegible]　綱代小家　云子
氷魚　綱[illegible]　[illegible]
鮫鰐　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

潮

本歌の詞書に寄月恋とあり本の写月恋とあり
本意和歌に新古共に其の典
拠を知らず俗説に
なるべきか
柳好
三猿
格通
義考
乙五
弱喰
格好
嵯峨
仕重
一吸
重翠

寄の字寄るの意なる無き川ちとせ
地よりの意のさまといふべき潮代
波接て集る風さもなし
月の夜を漁舟
立ち寄り
寄るしるの満干嵯峨
折折の潮
明果て一寄
汐風
寄の折の夜
寄る
寄る
寄る

[illegible]　山吉
[illegible]　古蒙
[illegible]　[illegible]風
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

雪

[illegible]

日光中禪寺にて

重きまゝ断しらぬ雪降る

椿園

つゝき羽の行うしろ影の中

葱玉

晩方まで雪の嶺の雪いゞ

梅臣

多のまゝ雪の山の色

花山

きゝ雪を聞く

佳貞

[illegible]

鴨

[illegible]

仲あきの鴨の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　　葉子
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　文城
[illegible]　　小松
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　雪山
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　甘蔗
[illegible]　　井鳩
[illegible]　　一信
[illegible]　　松氏
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　雪山
[illegible]　　雪宴

[illegible]　小松
[illegible]　時　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]

更衣　更衣代平安朝文　衣　藁雑
菓の口切　口切　口切の茶　口切の茶壺　言水句
口切　口切の茶壺　俳人物語　小説
口切や　神代の茶壺　一言
納豆　義経の灯　納豆の形　類語
貝焼　貝焼　貝焼の灯　貝焼いふ灯の姿　住居
蕎麦湯　蕎麦湯　蕎麦屋　蕎麦屋　蕎麦
風呂吹　風呂吹　風呂吹よりの出発　外交
風呂吹や　手もみもみ人の小説　男女
綿帽子　小説　小説の形　綿帽子　概説

綿　子　綿入の意味　物語　物語
食　手作りの意味　食の形　物語の編
物語の意味　物語の作者　午言
旅宿の意味　旅宿の作者　住居
一家八十年の意味　食の形　形態
帛　衣　雨衣の意味　帛の形　概説
羽二重の意味　帛の形　帛
白衣　白衣の意味　帛の形　物語
物語の意味　物語の作者　物語
紙子の意味　紙子　帛の形　月
社会の意味　社会の形　文学　文学

生姜湯　物のゆゑに母のゆゑ生姜湯
生姜湯　先の病変へ物くうけま
玉子湯　何の物ゝ知ゆゑ玉子湯
物ゝ知ゆゑ玉子湯
病中物ゝ知ゆゑ玉子湯
初夜の時ゝ知ゆゑ玉子湯
初夜の時ゝ知ゆゑ玉子湯
夜ゝ知ゆゑ玉子湯
夜ゝ知ゆゑ玉子湯
病ゝ知ゆゑ玉子湯

未子
一両
湯屋
黄湯
甘藷
世良
湯江
社之
文麿
暖山
山古

蒲鉾
既中
是袋
菜飯

雪賀
鶏魚
之誠
芋掛
外治
西
出浜
柳山
池雀
魚雪
俺風

毒ゝ
小麻風
物ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寒造酒　一字

神送

[illegible]

遠方呉

十夜

[illegible]

芭蕉忌

[illegible]

師會式

御影講

[illegible]

表 護

神 集

神 迎

星神乗

大師獅

御火燈　[illegible]の燈うを御[illegible]
[illegible]燈や鬢の[illegible]
南の市　[illegible]
宝地忌　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]
[illegible]

人見ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]

菜の末　所生もの雪より明るき一番の末　龍鱗淡色
尾ながし淡きもの多し　此果
菜の名称　つき殺さるる時黄色の名称の丸　俗変
又二の山とする名称よりてもつん　永機
菜もし蒔き菜　黄色にこの色を　再不田
落る菜　閉じ落ち閉じ落ち菜の花の色　乍雪
大晦日　初春に成　度地ちゃ　ぬ大三十日　出度
春ふるまい二つ更あり大きくて　竹囊
一月四日春の趣向　大三十日　文里
物買うて竹人あり大晦日　蕎玉
物もらう裏方ぬけて大きくて　俳魚

竹菜　ゆく春よ羅ものこの一番の春　生来
竹菜春や風ふく俳り　敷俳り　呂改
竹菜の春の庭よ菜安山家の形　春山
絶菜　大菜や春のうち　さく寒の中に　壮松
絶くしやちん　やちん医者の門　不二丸
絶菜のよ屋うハ菜の酒の菜　春松子
岡見　春ちう春のよを菜ふ菜見の丸　一郎
ちうちう出ちうちう菜見ん式　情河
ちうちうと出ちうちう菜見ん丸　春風
春竹　竹ちう永春つ尾の春ちう式　心見
春竹や庭未ちう古なちう　菜子

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

植長壽　石長寿き御のう歌や植長寿
年籠　末の葉やそよ新元金をや年ふりの　藤文
　　ゆるまつの遠ふくかりぬ年ふりの　法貴
　　不二九
　　嶺陰
　　葉史
　　徐蓬
　　為山
　　只雲
　　雲光
　　欧江
　　文種
　　冬壮九
来忘　葉の雲を一日まのきて来忘
　　ちもの旅しく交りや年ふりの
　　ふ雪よまて交ちや花のち忘
古屠　雨ちりや終よ屠古の紅見
　　ちまひと見て墨てまく屠この花
　　年籠よまちちて古ちよみ
　　梅も寝む屠の年れ日和の年
　　まつのき日をちのくちや古屠

朗詠

世中ちよ中ちは一鉢法苦古一具
寿ちまて一末元卯敗の人ち遠法
行まの日をちふのちちち梅の孔　若ち
法ちハ門田よ宮一敗ちち　約月
年ちくまれハちち法苦の味　の鶴
ちちち雲ちの仙の元出る古雲
ちち出て法ちち星や天の川古寿山
若ちの世梅ち風ちち移る若　ぬく
美しちふる美ちちいち雲　の会
花ちち町元動ち衣の月　祖松

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七夕や出るまゝ宵のくもの山
板ぶくゝ風のこまうの雲乗
紫陌もやさまし〳〵ちくさの花
宵ごゝろ夏の月うんきの山
夕立や一時ごとあまる叶の中
風起ちまを簾後ゝ鵜の声
更衣修ごゝ秋きふ歩行日
仁の宮ゝうけて秋を撫この那
ごの義ゝ物を除ごゝ寄ゝ亀
秋中ごゝふゝめゝ花ゝ望ゝ月
蔦みや出すゝい出ごゝ毒のふ
蓼阿

修雪ゝ阿走ゝ毒ごゝ蓼ごゝ蓼ゝし亀
二の毒ゝ蓼や月ゝ毒ゝ蓼ゝ来盛ゝ
物のゝ出ゝめゝ花や月ゝ神のゝ出ゝ
阿物ゝい出ゝ雨ゝ芸破ゝ
物ゝ出ゝ物ゝ修ゝ毒ゝ蓼ゝ出ゝ
少風の修ゝ歌や物ゝ二丘
物ゝ月日ゝ毒ゝ雪ゝ月ゝ物ゝ出ゝ
毒を蓼ゝ物ゝ毒ゝ物ゝ出ゝ
出ゝ一紫出ゝ入ゝ毒ゝ
旅ゝ月ゝ毒ゝ月ゝ
寝ゝ月ゝ毒ゝ出ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] 松頂
長沼の[illegible] 梅は 岩位
海[illegible] 月 乐山
[illegible] 梅園
[illegible] 秋の風 [illegible]
[illegible] 梅の [illegible] 清我
[illegible] 宵 いさ[illegible]
清[illegible] 田且
[illegible] 閑[illegible]
[illegible] 梅の [illegible] 方中
[illegible]

[illegible] 今の [illegible] 不老
[illegible] 梅の [illegible] 大車
[illegible] 秋の [illegible] 素明
[illegible] 侯山
[illegible] 望玉
[illegible] 時 [illegible]
[illegible] 雪燭
[illegible] 梅 雪月
[illegible] 三[illegible]
[illegible] 永遠
[illegible] 光庫

[illegible]　精蒸
芝山やみなみの月の清きかな　松園
初の雪やうすく生ふる一朝　知秋
冬籠よ立ちまさりする蔵の色　義白
冬籠や垣の外なる雪の中　東海
雪ちらし垣つ垣の木の葉のしぐるめく　芳象
[illegible]　蓬翁
義垂の[illegible]やたちまちきあ　古帆
月の光り波の色のうつや冬ごもり　斗史
出でまゐる人待影や居の月　一庵

[illegible]　霜垂
迷ひけり冬人の[illegible]松垂代　白外
[illegible]　松雪
梅ゝ[illegible]や梅ゝ[illegible]つ[illegible]　一雪
[illegible]　斜舟
[illegible]　三枝
山[illegible]　砂月
[illegible]　岳川
黄[illegible]の[illegible]　石谷
[illegible]　[illegible]
月の[illegible]　松雪

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]